
ご機嫌斜め

如月乙姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「機嫌斜め

【Zコード】

Z8587D

【作者名】

如月乙姫

【あらすじ】

秀一×ジョディの小説です。なんだか機嫌の悪いジョディ…秀一が聴いても返つて来るのは素つ氣無い答えだけで……ジョディの機嫌が悪い理由とは??

「どうした、ジョディイ」

秀一はジョディイに訊いた。

「別に」

ジョディイはそうとだけ答えて去つて行つた。

(随分、機嫌が悪いな)

秀一は密かに思つた。

それから数時間。

「ジョディイ」

「あら……秀一^{ショウウ}」

やはり、ご機嫌斜め。

「なんでご機嫌斜めなんだ??」

ジョディイの形のいい眉がつり上がる。

「なんで??自分で考えてみたらあ??」

ご機嫌悪化。

(なんだ：俺、何かしたか??)

秀一は内心かなり焦つていた。

「私、仕事が残つてるから戻るわよ」

ジョディイは素つ氣無く言うと行つてしまつた。

そして、秀一の頭の中にある可能性が浮かんだ。

(…あの事か!!…)

実は一週間前：

出掛けようと約束していたのだが、秀一の仕事でなくなつてしまつたのだ。

(考えてみれば、ジョディイの機嫌が悪くなつたのはその後からだしな)

原因が分かれば後は策を立てるだけだ。

「ジョディ…この前の事だろ？…怒ってるのは秀一が言つと、ジョディはゆっくり振り返つた。

「違うわよ」

ジョディは理由を話した。

実は四日前、秀一は仕事の関係で女性捜査官と話しをしていた。たまたま、ジョディがそれを目にしたのだ。

「それで…なんか…苛々して…秀一にハ当たりつて言つたか…」

ジョディは口もる。

秀一はジョディの額にドロップインを喰らわせた。

「嫉妬したのか」

秀一は笑つた。

「嬉しいな…」

ジョディは顔を上げた。

「お前が嫉妬したんだ…俺が他の女と話してただけでな」「私以外の女と話すなって訳じやないわよ」

ジョディはそっぽを向く。

「そう言つ事だろ」

秀一は悪戯っぽく笑う。

ジョディは顔を真っ赤にしていた。

「う、うるさいわよ、秀一」

秀一はジョディを抱き寄せてキスをする。

「秀一って結構キザよね」

「なんだと」

秀一はもう一発デコピンを喰らわせた。

「痛いじゃない…！」

ジョディはそう言った。

その後、抱き合つたままで笑い合つた。

数分後、ジェイムズが入つて来て一人は慌てて離れるのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8587d/>

ご機嫌斜め

2010年10月14日14時59分発行